

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会（板荷地区）について
日 時	令和 6 年 2 月 27 日（火）19 時 00 分～20 時 20 分
場 所	板荷コミュニティセンター
出 席 者	参加者：22 名
	①計画策定スケジュールで決定が今年 10 月とあるが、これから意見を聞いていき検討していくには期間が短いのでは。 ②再編計画を改定するためとの説明であったが、前回の再編計画に関する情報が不足している。その中で話し合い決定するというのは性急すぎる感が強い。再編案の押し付けと感じてしまう。 【回答】 ①保護者にアンケートを実施した結果、板荷地区では子どもの数に対して、小学校 99%、中学校 100%で「少ない」、「やや少ない」と回答。適正規模の関しては複式学級を容認が 3.1%、それ以外は通常学級を望んでいる。また再編推進には小学校 75%、中学校 72%が「進めるべき」、「どちらかといえば進めるべき」と回答しており、保護者の危機感が強いと捉え、計画見直しを進めている。指摘の通り期間は短い、既に実施したアンケートの結果を反映した計画案において本日から意見交換会を実施し、保護者や地域の声を掴んだ上で計画策定を進めていきたい。 ②平成 28 年度末に決定した再編計画に沿ってこれまで上粕尾小、西大芦小、久我小等の統合を進めてきたが、途中の豪雨災害や新型コロナウイルス感染症の蔓延等の要因により、一時中断していた。児童生徒の減少がさらに深刻化していることから、計画を見直すこととした。 説明のあったアンケートに私も回答したが、タイトルやアンケート内容でも「再編」とあり、統合ありきのアンケートであると感じていた。個人的には小規模特認校でとの考えがある。小さい学校で過ごしたい子どももいるのでは。そういった子どもにはどう対応するのか。 また、平成 28 年度にも質問をしたが、郊外から中央へという流れのほかに、中央から郊外などの考えはないのか。以前はあまり良い回答は得られていなかったと思う。小規模特認校については県内の多くの市町が取り組んでおり、やっていないほうが少数派と思うが、鹿沼市で行わない理由は何か。 【回答】 適正規模を目指す理由について、国の定める学校規模を基準にしており、適正規模は必要と考えて進めている。文科省では、学校再編の推進について、「教育的視点」と「地域コミュニティ視点」の 2 つの視点を持って進めることが重要としている。学校は知識や技能の習得だけでなく、多様な考えに触れ、社会を担うための基本的素質を養うことを目的としている。また、地域コミュニティの核としての役割も有していることから、保護者や地域住民の声を丁寧に伺いながら進めていくことが重要となる。 本市では、これらの視点を踏まえつつ、教育環境の充実を中心に据えて進めていく考えである。学校の教育的な役割を果たすためには、適正規模又は一定規模の児童生徒数は必要かと思う。 小規模特認校については、県内 11 市 3 町で 31 校が実施している。鹿沼市も検討はしてきたが、アンケートの結果では小規模の学校を残してほしいという意見は少なかったため、再編方針(案)には含めていない。

	【発言者返答】 アンケートには小規模特認の設問はなかったように記憶している。一般の保護者はそういったものの存在自体知らないのではないか。もし小規模特認校の存在を伝えていたら、そっちの方が良いと思う保護者もいたのでは。統合することだけでなく、小規模特認校とすることに対する設問もあった方が良かったのでは。こうした点を考えると、統合へ誘導しているアンケートであったように感じる。
	①以前、板荷小・中学校は、小中一貫モデル校の指定を受け、取り組みをしていた。モデル校の期間終了後も小中で連携して学校活動を行ってきた。そうした実績がある中で、板荷地区が小中一貫校や義務教育学校の対象から外れているのは何故か。 ②アンケート結果は鹿沼市全体の結果だろう。人数の多い地区の考えばかり反映されてしまい、板荷のような人数の少ない地区の数字は全体への影響は微々たるものと思うので、アンケートの結果は参考にならない。該当地区の意見を聞いてほしい。 【回答】 ①小中一貫校、義務教育学校は、適正規模が確保できる南押原地区、北大飼地区で検討している。板荷地区は対象から外したということではなく、適正規模には満たないため統合をする方針としている。 ②アンケート結果については、学校単位でも集計ができています。統合については板荷小学校で約 65%が統合について「進めるべき」「どちらかと言えば進めるべき」、30%が「進めるべきでない」「どちらかと言えば進めるべきでない」と回答。板荷中学校では約 75%が「進めるべき」「どちらかと言えば進めるべき」、約 22%が「進めるべきでない」「どちらかと言えば進めるべきでない」であった。
	市の考えに大賛成。「待ってました！」という気持ち。ようやくかとの思いが強い。自分の子どもにも意見を聞いたところ、「みんなで大きな学校に通えるのは嬉しい。小規模校では部活動などでも様々な制限があるが、選択肢が広がることなどメリットは多い。」「●年度小学校に入学するが、幼稚園に比べ人数が少なくなってしまう、あまり行きたくない。」と言っていた。子どもたちのためにもこの再編計画策定はありがたいと思う
	クラスの人数が、中学生は 10 人以上、小学生は 5 人であり、雰囲気は全然違う。人間関係や授業内での意見交換等を考えても、一定の人数がいて選択肢が多いほうが子どもにも良いと考える。5 人程度では過ごしにくいと感じることもあるそう。統合はできるだけ早いことを希望するが、今後のスケジュールは。 【回答】 今後は令和 6 年 10 月に計画決定し、地域に説明し合意を得る。その後、準備委員会を設置し 2 年間を目途に準備を進める。最速では、令和 7 年度に準備委員会設置し、7、8 年度中に協議と準備を進め、令和 9 年度から統合開始が最短のスケジュールと考えている。 全体では令和 6、7 年度に合意、9、10 年度に統合。
	自分も再編計画に賛成。できるだけ早く進めてほしい。地域のいろいろな考えや意見はあると思うが、実際に子どもを通わせる保護者の意見を優先に考えて欲

	しい。
	在学中に統合となると、それまで使用していた制服や通学用自転車を使用しなくなり、制服を新調するとなると経済的な負担が大きい。こうしたことについても調整して欲しい。 【回答】 もう一度制服を買い直す必要のないように対応していきたい。 自転車については、通学距離に応じて通学では使用しなくなる場合があるが、他の用途で利用できるのご理解を。
	統合案では板荷小と菊沢西小で考えているそうだが、菊沢西小も人数が少ないのでは。統合後にも学校が小規模になり、また統合ということも考えられる。今回の再編で板荷小と菊沢西小と一緒に北小へ統合するといった考えはないのか。 【回答】 現時点では適正規模での統合という視点で、板荷小と菊沢西小で考えている。菊沢西学区では都市計画における調整区域の規制緩和措置により児童数は微増しているため10年後も維持できると考えている。
	部活動は土日もあるが、スクールバスは対応できるのか。土日や部活動の時間に応じて保護者の送迎が必要になることもあるのか。 【回答】 現在も、西中学校、栗野中学校において、スクールバスの「部活便」の運行で土日も対応している。今回もそのように考えている。
	教育長の言葉にも「覚悟を持って進める」とあったが、統合を進めることは、決まっているようなものに思える。小規模校からいきなり児童生徒数の多い学校に通学することになると、これまでの学校で教わってきた、知っている先生たちもおらず、周りも知らない子供が圧倒的に多いなど、大きな不安を抱く子どもも出てくると考えている。その心のケアを行える体制は考えてくれているのか。 【回答】 教職員の人事配置については教育委員会が所管している。過去の例でも教職員の異動にも配慮してきている。子どもの負担軽減を図れるよう十分配慮し、進めていく考えである。 また、統合後も引き続き保護者や子どもたちの意見を聞きながら配慮していきたいと考えている。
	①入学した学校で卒業できない。統合は望まない転校と感じる子どももいると思う。その点で心のケアは重要と感じる。 ②統合予定の北中は学校で部活動加入は強制なのか。強制でないのであれば授業終了後帰宅する子どもと部活動後に帰宅する子どもに分かれるが、部活に所属していない生徒は、部活が終わる時間まで待たなくてはならないのか。 ③制服の負担についてはやはり重要だと思う。その点も配慮して取り組んで欲しい。

	【回答】 ①心のケアや制服の点については先の説明のように配慮していく。 ②現在、市内の中学校では、部活動は強制ではないので、スクールバスの運行は現行でも行っているように、２回の運行で部活をせず帰宅する生徒、部活動に取り組んで帰宅する生徒、それぞれのスケジュールに合わせている。 この後は地域住民向けにも説明会が開催される。今日の話し合いでも様々な意見が出ているが、今後の説明では更に多くの意見が出ると思う。 その中で、説明会が始まって急に一気に説明されるのはあまり良くないのでは。やはり期間が短いのではないか。決まったもののことのように感じてしまう。今後行われる地域への説明会においても、要望をよく聞き、慎重に丁寧な説明をお願いしたい。 閉会
配布資料	鹿沼市小中学校再編計画骨子、鹿沼市の小中学校の配置図